

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 10192028
PUBLICATION DATE : 28-07-98

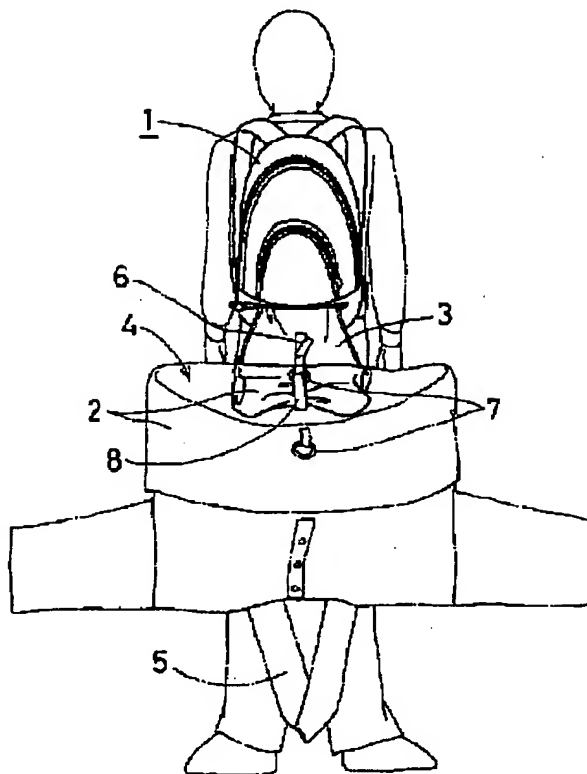
APPLICATION DATE : 16-01-97
APPLICATION NUMBER : 09005615

APPLICANT : HIROSE:KK;

INVENTOR : HIROSE KEIJI;

INT.CL. : A45C 9/00 A41D 3/04 A45C 15/00

TITLE : BAG



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a bag hardly being wetted equal to a wearing person in the state of wearing a raincoat by providing a bag part and a raincoat part, connecting the bag part and the raincoat part and covering a body together with the bag part by the unfolded raincoat part as needed.

SOLUTION: This bag is a back carrying type to be fixed to the back side of the body and is provided with the bag part 1 and the raincoat part 2. The bag part 1 and the raincoat part 2 are connected through a connection part 3. For the raincoat part 2, a large opening end 4 on the lower bottom side of the raincoat part 2 is passed from the back side to the body from a head and a hood part 5 is finally put on the head. The raincoat part 2 is divided from other contents and housed in the lower area of the bag part 1 when it is not used. When it is needed like the time of a sudden rain at a tourist resort, in the state of carrying the bag part 1 on the back, the fastener of the lower area is opened and the raincoat part 2 is pulled out. Then, a second fixing band 8 is detached from a first fixing band 6 by groping, the first fixing band 6 and a ring 7 are detached, the raincoat part 2 is unfolded, entirely put on from the head and worn and the body is covered together with the bag part 1.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-192028

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月28日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 4 5 C 9/00

A 4 5 C 9/00

M

A 4 1 D 3/04

A 4 1 D 3/04

D

M

G

A 4 5 C 15/00

A 4 5 C 15/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平9-5615

(22) 出願日

平成9年(1997) 1月16日

(71) 出願人 393025482

株式会社ヒロセ

兵庫県豊岡市中陰521番地

(72) 発明者 廣瀬 敬二

兵庫県豊岡市中陰521番地 株式会社ヒロ

セ内

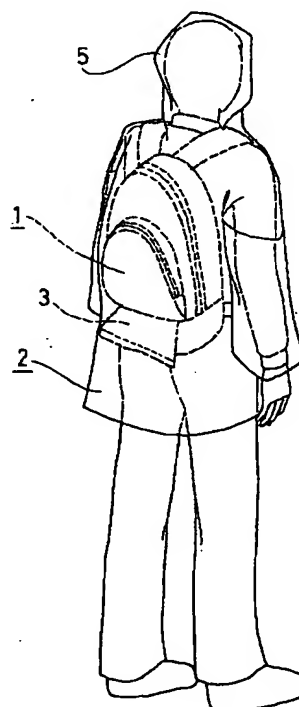
(74) 代理人 弁理士 辻本 一義

(54) 【発明の名称】 靴

(57) 【要約】

【課題】 合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい靴を提供しようとするもの。

【解決手段】 身体に固定する形式の靴であって靴部1と合羽部2とを具備すると共にこれら靴部1と合羽部2とは連結され、必要時には展開した合羽部2により身体を靴部1ごと覆うようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 身体に固定する形式の靴であって靴部と合羽部とを具備すると共にこれら靴部と合羽部とは連結され、必要時には展開した合羽部により身体を靴部ごと覆うようにしたことを特徴とする靴。

【請求項2】 身体の中側に固定する形式の靴であって、必要時には靴部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶって着用するようにした請求項1記載の靴。

【請求項3】 合羽部は靴部の下部領域に他の収容物から区画されて収容された請求項1又は2記載の靴。

【請求項4】 靴部と合羽部とは連結部を介して連結されている請求項1乃至3のいずれかに記載の靴。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、雨の際に有用な靴に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、野球観戦やハイキングなどで雨が降りそうな時は靴に合羽（雨具）を収容しておき、雨が降りだしたら靴から合羽を取り出して着用することがある。このように靴に合羽を収容しておくと、不意の雨でも傘で片手をふさがれることなく対処できる。

【0003】しかし、合羽を着用すると着用者自体は雨を避けられるが、合羽を収容していた靴の方は傘をさす場合と反して雨に濡れてしまう。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】そこで、この発明は、合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい靴を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するためこの発明では次のような技術的手段を講じている。

【0006】この発明の靴は、身体に固定する形式の靴であって靴部と合羽部とを具備すると共にこれら靴部と合羽部とは連結され、必要時には展開した合羽部により身体を靴部ごと覆うようにしたことを特徴とする。

【0007】この靴によると、必要時には靴部に連結されている合羽部を展開して身体を、身体に固定した靴部ごと覆うことができる。

【0008】ここで、身体の中側に固定する形式の靴であって、必要時には靴部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶって着用するようにしてもよい。このように構成すると、必要時には身体の中側に固定した靴部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶるだけで着用することができるので、急な降雨に対して迅速に対応することができる。

【0009】また、合羽部は靴部の下部領域に他の収容物から区画されて収容されたこととしてもよい。このように構成すると、雨が上がって合羽部を靴部に再収容した際にも他の収容物の上に雨滴が滴り落ちて濡らしたり

たりすることがない。

【0010】さらに、靴部と合羽部とは連結部を介して連結されていることとしてもよい。このように構成すると、靴部と合羽部との間に介在する連結部の領域が遊びとなるので、合羽部を引き出して着用する際の寸法的余裕があって非常に着用しやすい。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0012】図1及び図2に示すように、この実施形態の靴は身体の中側に固定する背負い式の形式としており、靴部1と合羽部2とを具備する。靴部1と合羽部2とは、連結部3を介して連結されている。

【0013】合羽部2は、靴部1から引き出して頭からすっぽりかぶって着用する形態としている。すなわち、合羽部2は左右両側から手を通してから合わす形態ではなく、背中側から合羽部2の下裾側の大きな開口端4を頭から体に通して、最終的にフード部5を頭に被るようにしている。

【0014】図3及び図4に示すように、合羽部2は、不使用時には靴部1の下部領域に他の収容物（図示せず）から区画されて収容できるようにしている。

【0015】図5及び図6に示すように、合羽部2は次のようにして靴部1に収容している。合羽部2を折り畳んでいって、先ず連結部3側の第一止めバンド6と合羽部2の裾の中央近傍に固定したリング7とをマジックテープ（登録商標）で固定し、次に折り畳んだ合羽部2の外側に固定した第二止めバンド8と前記第一止めバンド6をマジックテープで固定する。その後、靴部1の下部領域に収容してファスナー9を閉じる。第二止めバンド8の端部を予め折り返しておく、手さぐりでも非常に分かりやすい。

【0016】次に、この実施形態の靴の使用状態を説明する。行楽先で雨が急に降り出したときなどの必要時には、靴部1を背負ったままの状態下部領域のファスナー9を開き合羽部2を引き出して、手さぐりで第二止めバンド8を第一止めバンド6から外すと共に、第一止めバンド6とリング7とを外して合羽部2を展開し、頭からすっぽりかぶって着用し身体を靴部1ごと覆う。

【0017】なお、合羽部2は靴部1の下部領域に収容しており、丁度腰の当たりの位置に相当するので、手を後ろに回して合羽部2を手さぐりで展開する作業が非常にやり易い。

【0018】この靴によると、必要時には靴部1に連結されている合羽部2を展開して身体を、身体に固定した靴部1ごと覆うことができるので、合羽を着用した状態で着用者と同様に靴部1も濡れにくいという利点がある。

【0019】また、身体の中側に固定した靴部1に収容された合羽部2を引き出して頭からかぶるだけで簡単

に一遍に着用することができるので、急な降雨に対して鞆を背負ったまま迅速に対応することができるという利点がある。

【0020】また、鞆部1と合羽部2との間に介在する連結部3の領域が遊びとなるので、合羽部2を引き出して着用する際の寸法的余裕があって非常に着用しやすいという利点がある。色々な体型の人に対して容易に適合するのである。

【0021】さらに、雨が上がって合羽部2を鞆部1に再収容した際にも他の収容物の上に雨滴が滴り落ちて濡らしたりすることがないという利点がある。

【0022】ところで、引き出した合羽部2は左右両側から着用し、身体の中央部でファスナーやボタンによって相互を連結するタイプのものとしてもよい。

【0023】この鞆は、リュック・サック、ヒップ・バッグ、ウェスト・ポーチその他の各種のタイプに適用することができ、子供の遠足その他に好適に使用することができる。また、合羽部に防寒具としての機能を併せ持たせると、冬季などの寒い時期の降雨は非常に肌寒いものであるので、このような時期により重宝なものとして使用することができるようになる。

【0024】

【発明の効果】この発明は上述のような構成であり、次の効果を有する。

【0025】身体を身体に固定した鞆部ごと覆うことができるので、合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい鞆を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の鞆の実施形態で鞆部を背負い合羽部を着用した状態を説明する斜視図。

【図2】図1の鞆の合羽部を展開した状態を説明する斜視図。

【図3】図1の鞆の鞆部に合羽部が収容された状態の一部破断側面図。

【図4】図1の鞆の鞆部から合羽部が引き出された状態の一部破断側面図。

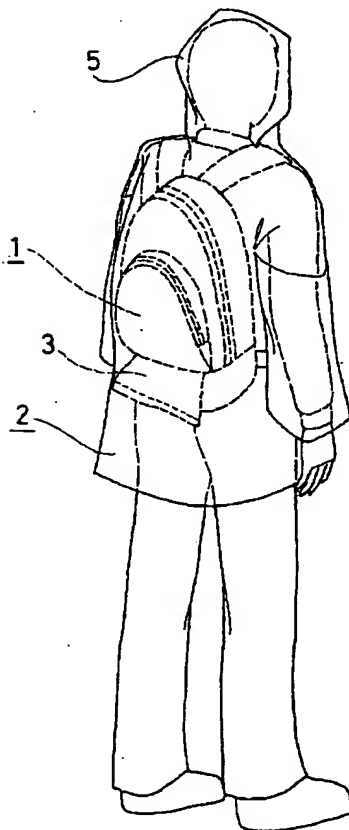
【図5】図1の鞆の鞆部に合羽部を収容していく状態を説明する斜視図。

【図6】図1の鞆の鞆部に合羽部を収容するために止めバンドとリングとを固定した状態を説明する斜視図。

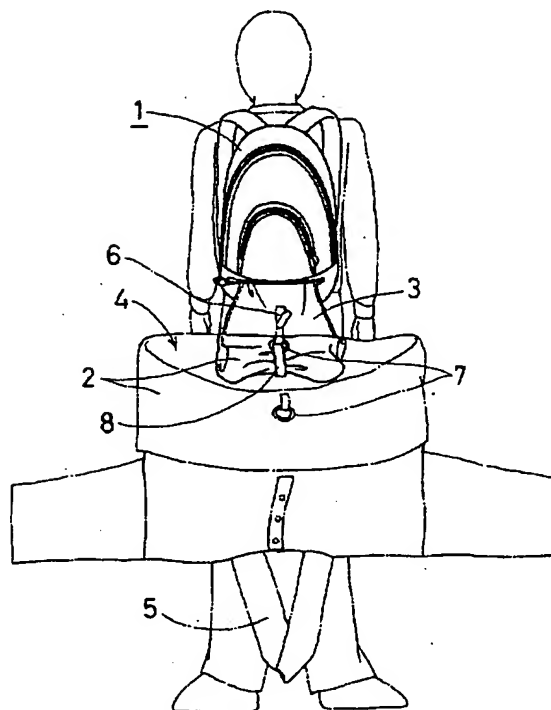
【符号の説明】

- 1 鞆部
- 2 合羽部
- 3 連結部

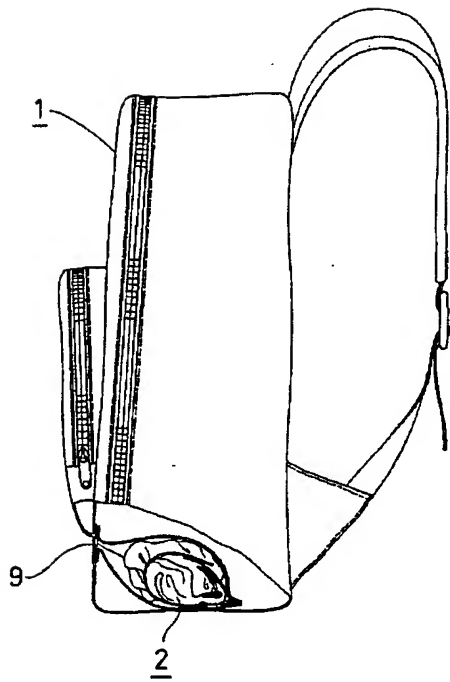
【図1】



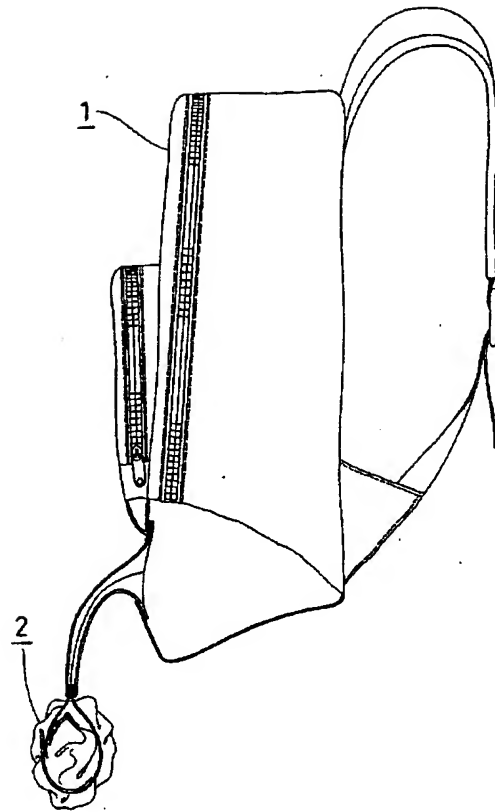
【図2】



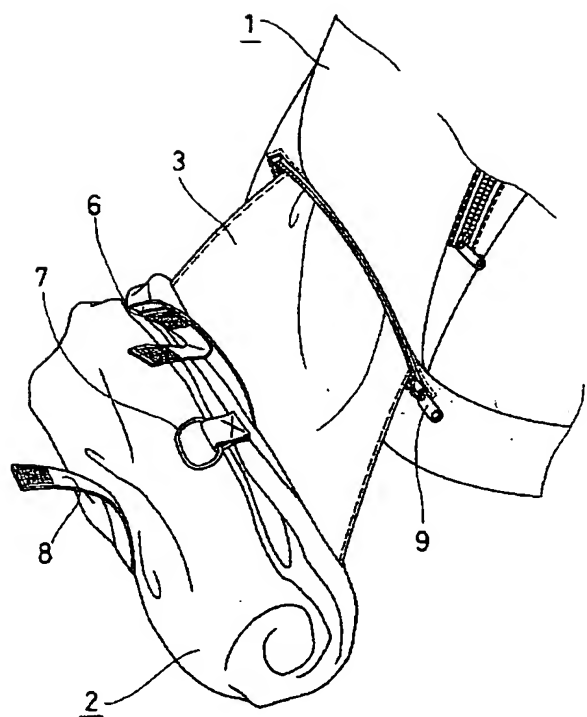
【図3】



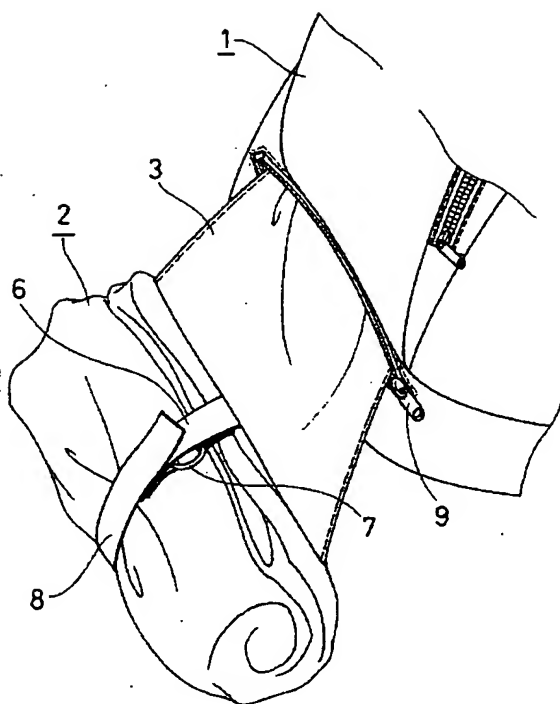
【図4】



【図5】



【図6】



THIS PAGE BLANK (USPTO)